【専門分野Ⅱ】

科　目	単位	時間数	配当年次	学期	担　当　者
成人看護学概論	2	30	1	2学期	教育主事

授　業　の　ね　ら　い
成人各期の特徴を理解し、成人期にある対象が持つ健康問題、家族、社会が成人の健康に及ぼす影響について学ぶ。 また、成人期の対象が健康の維持増進にあたって自己コントロールできるよう、理論に基づいた具体的な看護アプローチの方法について学ぶ。

時	授　業　内　容	備　考
1	成人期の区分と各発達段階と発達課題 成人期　各期の特徴（身体・心理・社会的な特徴）	
2	成人期の人々の生活・暮らし・人生（仕事・家族）	
3	成人の健康の状況 1)生と死の動向　2)労働力人口 3)健康の状況（平均寿命・死因・有訴者率・通院者率・受療状況）	
4	健康とは 健康バランスに影響を及ぼす要因（ストレス他） 成人各期の健康問題	
5	成人の保健・医療・福祉に関わる施策	
6	成人への看護アプローチの基本 大人の学習と看護 健康問題をもつ大人と看護師の人間関係	
7	生活のなかで健康行動をはぐくむ援助 健康行動理論　・　エンパワメントエデュケーション	
8	チームアプローチ 看護実践における倫理的判断 意思決定支援 家族支援	
9	ヘルスプロモーションと看護	
10	地域における健康増進にむけた活動の実際	
11	健康生活の急激な破綻から回復を促す看護、必要な理論	
12	慢性病との共存を支える看護・必要な理論	
13	障害がある人の生活とリハビリテーション 人生最後のときを支える看護	
14	症状マネジメントモデルから導かれた看護アプローチ	
15	成人看護学概論のまとめ	
16	試験	（４５分）

授業形態	講義
評価	筆記試験および授業中の課題、グループワーク参加度等 他の事項については履修規程の第６条、第７条に定めるとおりとする。
テキスト	系統看護学講座　成人看護学[1]　成人看護学総論　医学書院 国民衛生の動向　厚生統計協会
その他	

【専門分野Ⅱ】

科　　目	単位	時間数	配当年次	学期	担　当　者
成人経過別援助論	1	30	1	2学期	看護師 専任教員

授　業　の　ね　ら　い
成人期の特徴を理解し、各健康レベルに応じて、成人が主体的に健康の維持、増進、疾病の回復、死の受容ができるよう看護の機能と役割を学ぶ。

時	授　業　内　容	備　考
1	1. 経過別看護とは 1)経過別看護の捉え方　2)経過別看護の視点	
2	2. 急性期にある患者（急性・重症）の特徴 1)急性期とは　2)急性期にある患者と家族の特徴 3)急性期にある患者への治療の特徴と影響	
3	3. 急性期看護の特徴 1)急性期看護の特徴　2)手術を経験する患者の看護	
4	4. 急性期看護に活用する理論と看護 1)ストレス理論　2)危機理論	
5	5. 回復期にある患者の特徴 1)回復期とは 2)回復期にある患者の特徴 3)リハビリテーションとは	
6	6. 回復期看護の特徴 1)体力の回復促進　2)潜在的合併症の予防 3)セルフケア行動確立の促進 4)生活の再構築に向けた援助	
7	7. 回復期看護に活用する理論と看護 1)障害受容	
8	8. 慢性期看護の考え方 1)慢性期にある人の疾患・治療の特徴・療養・環境・ 経済的問題（医療費助成制度含む）	
9	9. 慢性期にある人への看護 1)自己効力理論　2)エンパワーメント 3)セルフケアマージメントモデル　4)病みの軌跡 5)変化ステージモデルについて	
10	10. 慢性期にある人への看護（事例） 1)成人慢性期疾患の患者の対象理解と援助 （自己モニタリング・ケアの工夫と応用・患者会の活用） 2)退院調整とチーム連携	
11	11. 終末期看護の考え方 1)終末期・緩和ケア・死の定義 2)終末期看護の看護師の役割と機能/目的	
12	12. 終末期にある人の特徴と理解 1)全人的苦痛　2)がん性疼痛　3)家族のケア	
13	13. 終末期にある人への看護援助 1)QOL　2)わるい知らせの伝え方　3)意思決定を支える援助 4)死にゆく人の心理過程　5)スピリチュアルケア	
14	14. 看取りの看護 1)死の看取りとは　2)死後のケア　3)悲嘆のケア　4)死生観	
15	15. 看取りの看護 5)死後の処置	（演習）
16	試験	（４５分）

授業形態	講義および演習
評価	筆記試験 他の事項については履修規程の第６条、第７条に定めるとおりとする。
テキスト	系統看護学講座　成人看護学[1]　成人看護学総論　医学書院 系統看護学講座　基礎看護学[4]　臨床看護総論　医学書院
その他	

【専門分野Ⅱ】

科　目	単位	時間数	配当年次	学期	担　当　者
成人治療別援助論	1	30	2	1学期	看護師 専任教員

授　業　の　ね　ら　い
治療処置を受ける患者の看護について学ぶ。

時	授　業　内　容	備　考
1	1. 手術侵襲と生体反応 1)麻酔とは　2)手術前の管理　3)手術中モニター	
2	4)全身麻酔・局所麻酔・脊椎麻酔・硬膜外麻酔・麻酔薬 5)術中モニタリング	
3	2. 手術療法と看護①　手術療法とは 1)手術の方法　①開腹　②開胸　③開頭　④内視鏡　⑤日帰り手術による影響と援助	
4	2. 手術療法と看護②　手術療法とは 2)術前患者の看護　①手術療法に対する理解と意志決定を支える援助　②合併症予防・処置・指導（抗凝固薬の内服について含む）③不安アセスメント	
5	2. 手術療法と看護③ 3)術前患者の看護　①手術前日　②当日の看護	
6	2. 手術療法と看護④ 4)術中患者の看護（麻酔の影響・術中の安全管理含む）	
7	2. 手術療法と看護⑤ 5)術後患者の看護 （早期離床に向けた援助、術後合併症予防に向けた援助、術後疼痛）	
8	2. 手術療法と看護⑤ 5)術後患者の看護　（術後の栄養・水分管理）	
9	2. 手術療法と看護⑤ 5)術後患者の看護の実際	（演習）
10	2. 手術療法と看護⑥ 6)術後患者の看護　（ドレーン管理、創傷の治癒過程と創傷管理）	
11	4. 人工呼吸器の構造 1)人工呼吸器装着中の患者のケア	
12	5. 急性症状のある患者への看護　1)熱中症　2)外傷　3)熱傷 4)凍傷　5)骨折　6)急性中毒	
13	6. 救急時の看護① 1)急変時の対応（心肺蘇生法、胸骨圧迫、人工呼吸の実際）	
14	6. 救急時の看護② 1)急変時の対応（心肺蘇生法、胸骨圧迫、人工呼吸の実際）	（演習）
15	6. 救急時の看護② 1)急変時の対応（心肺蘇生法、胸骨圧迫、人工呼吸の実際）	（演習）
16	試験	（４５分）

授業形態	講義および演習
評価	筆記試験 他の事項については履修規程の第６条、第７条に定めるとおりとする。
テキスト	系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　　医学書院 ナーシング・グラフィカ 成人看護学④　周術期看護 メディカ出版
その他	

【専門分野Ⅱ】

科　目	単位	時間数	配当年次	学期	担　当　者
成人主要症状別援助論	1	30	2	1学期	専任教員

授　業　の　ね　ら　い

健康の段階に応じて、成人期に多くみられる疾病、障害を持つ人が示す主な症状とその看護について学ぶ。

時	授　業　内　容	備　考
1	1. 胸痛のある患者の看護 1)胸痛のメカニズム 2)症状のアセスメントと看護 3)包括的心臓リハビリテーション	
2	2. 呼吸困難のある患者の看護 1)呼吸困難のメカニズム 2)症状のアセスメントと看護 3)心不全により呼吸困難のある患者の看護	
3	2. 呼吸困難のある患者の看護 4)気胸により呼吸困難のある患者の看護	
4	3. 意識障害のある患者の看護 1)意識障害のメカニズム　2)症状のアセスメントと看護	
5	4. 一次性脳障害（脳出血）二次性脳障害により意識障害を きたしている患者の看護 5. 高次脳機能障害（失行・失認）のある患者の看護	
6	6. 痙攣をおこす患者の看護 1)痙攣発生のメカニズム 2)症状アセスメントと痙攣発作時の対応・痙攣予防に対する援助	
7	7. 発熱のある患者の看護 1)発熱のメカニズム　2)症状のアセスメントと看護	
8	8. 消化器症状のある患者の看護 1)腹痛・便秘・下痢・嘔気・嘔吐のメカニズム 2)随伴症状に応じたアセスメントと看護	
9	9. 浮腫のある患者の看護 1)浮腫のメカニズム（心性・腎性・肝性） 2)浮腫のアセスメントと看護	
10	10. 水電解質異常のある患者の看護 1)腎機能排尿障害・腎疾患患者の特徴（急性期～終末期） 2)急性腎不全・尿毒症のメカニズム 3)急性腎不全の看護	
11	11. 慢性腎不全患者の看護 1)透析療法をうける患者の看護	
12	12. 内分泌・代謝異常のある患者の看護 1)患者の特徴 2)治療目標 3)看護目標 4)糖尿病のメカニズムと症状 5)糖尿病患者の治療と看護	
13	6)食事療法 7)運動療法 8)薬物療法 9)合併症の予防と アセスメントの視点　10)生活指導と教育視点	
14	11)自己血糖測定	(演習)
15	12)インシュリン注射の方法	(演習)
16	試験	(４５分)

授業形態	講義および演習
評価	筆記試験 他の事項については履修規程の第６条、第７条に定めるとおりとする。
テキスト	看護過程に沿った対症看護　学研 系統看護学講座　成人看護学（呼吸器、循環器、脳・神経、 ｱﾚﾙｷﾞｰ・膠原病・感染症、腎・泌尿器、消化器、内分泌・代謝）　医学書院
その他	

【専門分野Ⅱ】

科　目	単位	時間数	配当年次	学期	担　当　者
成人援助論演習	1	30	2	2学期	看護師 専任教員

授　業　の　ね　ら　い
事例（周手術期の看護と癌看護）を通して、成人期にある対象の特徴を理解し、看護の方法を学ぶ。成人経過別・症状別看護で学んだ知識を活用し、実際の治療や対象の状態を考慮しながら看護の方法を学ぶ。がん看護については、早期発見、治療、社会復帰までの経過をたどる対象とその家族への援助・支援について学ぶ。

時	授　業　内　容	備　考
1	1. 周手術期看護　1)看護目標　2)生体反応の理解　3)胃切除術に考えられる合併症　4)胃癌患者の術前の看護　5)病態の理解	
2	2. 胃切除術を受ける患者の術前看護 1)事例展開　①情報分析　②援助計画	（グループワーク）
3	2. 胃切除術を受ける患者の術前看護 2)術前オリエンテーション　③術前訓練	（演習）
4	3. 胃切除術を受けた患者の看護 1)生体反応の理解	
5	3. 胃切除術を受けた患者の看護 2)術後合併症	
6	3. 胃切除術を受けた患者の看護　3)関連図　4)看護計画 5)問題リスト　6)術後１日目の看護計画	
7	3. 胃切除術を受けた患者の看護 7)術後１日目の看護 ①フィジカルアセスメント　②離床援助・報告の実際	（演習）
8	3. 胃切除術を受けた患者の看護 8)術後２日目から７日目の看護 腹腔鏡下手術を受ける患者の看護のポイント 食事指導のポイント	
9	4. 乳がんの患者の看護　1)対象理解　①乳腺の解剖生理　②乳がんの種類と症状　③乳がんの検査と治療　④経過の特徴　⑤意思決定の過程と受け入れへの看護　⑥手術療法を受ける患者の看護	
10	4. 乳がんの患者の看護　2)対象理解　⑦身体的苦痛 2)手術療法を受ける患者の看護（リンパ浮腫へのケア含む） 3)化学療法を受ける患者の看護　①副作用とそのメカニズム 4)治療（手術療法・化学療法）における苦痛と苦痛緩和への看護	
11	4. 乳がんの患者の看護　5)放射線療法を受ける患者の看護 ①対象の身体的苦痛　②副作用とそのメカニズム ③治療（放射線療法）における苦痛と苦痛緩和への看護	
12	4. 乳がんの患者の看護　6)対象理解　①身体的苦痛 7)がん性疼痛の理解　8)呼吸困難の理解 9)がん性疼痛・呼吸困難を有する患者の看護	
13	4. 乳がんの患者の看護　10)対象理解 ①精神的苦痛　②社会的苦痛　③霊的苦痛の看護	
14	4. 乳がんの患者の看護　11)家族への看護（グリーフケア含む）	
15	4. 乳がんの患者の看護　12）全人的苦痛 5. 乳がん患者の看護過程13)看護上の問題　14)目標設定 15)看護計画立案	
16	試験	（４５分）

授業形態	講義および演習
評価	筆記試験および授業中の課題 他の事項については履修規程の第６条、第７条に定めるとおりとする。
テキスト	系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　　医学書院 ナーシング・グラフィカ 成人看護学④　周術期看護 メディカ出版 系統看護学講座　別巻　緩和ケア　　医学書院 系統看護学講座　専門Ⅱ成人看護学[9]　女性生殖器
その他	

【専門分野Ⅱ】

科　目	単位	時間数	配当年次	学期	担　当　者
老年看護学概論	1	15	1	2学期	非常勤講師 教育主事

授　業　の　ね　ら　い
老年期の特徴と老年期の対象を取り巻く社会を理解し、健康レベルに応じた看護の機能と役割を学ぶ。 高齢者の健康問題は、加齢による変化を基盤に生活環境、生活習慣、疾病、リハビリテーションなど多様な因子の影響を受けることから個別的で複雑な構造を持つことを学ぶ。 これらを踏まえて、社会構造の変化とこれからの保健・医療・福祉の現状と課題を学ぶ。

時	授　業　内　容	備　考
1	1. 老年期とは 1)老いのイメージ 2)老年期の定義と意義 3)加齢と老化 2. 高齢者の時代背景に関連する人生と経験の多様性（生活史・価値観・生活習慣・生活様式） 3. 老年期における発達と成熟	
2	4. 加齢に伴う変化　1)身体的変化（外皮系・感覚器系・消化器系・運動器系〈サルコペニア〉） 2)心理的変化（喪失体験と適応・人格と尊厳・スピリチュアリティ） 3)社会的変化（生活の場・生活習慣・役割と社会活動・余暇活動・家族機能・住宅環境・就労・雇用・収入・生計 ）	
3	5. 演習 高齢者疑似体験	（演習）
4	6. わが国の高齢化　1)高齢化率・年齢3区分別人口　2)平均寿命 3)老年人口の将来推計 7. 高齢者の健康　1)老年期の健康の捉え方と特徴（有訴者・受療の状況） 2)生きがいと生活の満足感 8. 高齢者と家族　1)介護する家族への看護　2)介護する家族への看護 3)介護家族の課題	
5	9. 高齢者疑似体験を通して　1)高齢者について理解したこと 2)強み・弱み・必要な配慮・援助（グループワーク　発表）	
6	10. 高齢者のリハビリテーション 11. 高齢社会における権利擁護　1)ｽﾃｨｸﾞﾏ･ｴｲｼﾞｽﾞﾑ･ｱﾎﾞﾄﾞｶｼｰ　2)高齢者虐待　3)身体拘束　4)ノーマライゼーション　5)擁護のための制度（成年後見制度・日常生活自立支援事業・自立支援とエンパワメント） 12. 老年看護の理念　1)老年看護実践の特徴（安全・安楽な生活への看護・健康の保持増進と廃用症候群の予防・疾病の治癒・回復の特徴をふまえた看護・個別の日常生活能力、目標に合わせた看護・人生の統合をはかる看護）2)在宅・施設につなげる看護（地域連携）　3)高齢者の医療安全の特徴	
7	13. 介護保険制度のしくみ 1)保健医療福祉システムの変遷　2)介護保険制度の整備　3)高齢者医療のしくみ 14. 高齢者を支える職種と活動の多様化 1)高齢者の施設・居宅サービスの特徴と看護（介護療養型医療施設・介護老人保健施設・介護老人福祉施設・認知症対応型共同生活介護・小規模多機能型居宅介護） 15. 高齢者を支える多様な職種（チームアプローチ含む） 1)看護職の活動の拡大と専門化	
8	試験	（４５分）

授業形態	講義および演習
評価	筆記試験 他の事項については履修規程の第６条、第７条に定めるとおりとする。
テキスト	系統看護学講座 老年看護学　医学書院
その他	

【専門分野Ⅱ】

科　目	単位	時間数	配当年次	学期	担　当　者
老年生活援助論	1	30	2	1学期	教育主事

授　業　の　ね　ら　い
高齢者の健康生活の維持や生活障害をアセスメントするために必要な基礎的技術を理解する。 また、高齢者の生きる上で持つ弱みやケア上困る問題にのみ目を奪われるのではなく身体的・心理的・社会的潜在能力を見出す視点を養う。高齢者の生命維持だけではなくQOLの視点から高齢者の健康を支える看護を学ぶ。

時	授　業　内　容	備　考
1	高齢者のその人らしい生活・くらし・人生 生活活動（食事・清潔・排泄）・睡眠	
2	高齢者の安全を守り、生活を支える物品・機器・設備・支援サービス	バリアフリー・慢性期医療展 看護未来展・在宅医療展参加
3	1.高齢者の食生活と看護　1)摂食障害のアセスメント 2)嚥下障害のアセスメント　3)低栄養状態のアセスメント 4)多職種との協働による栄養管理、嗜好性、環境を踏まえた食事援助 2.胃瘻の管理　1)胃瘻の構造　2)胃瘻の管理方法（与薬も含む）	
4	3.高齢者の清潔・衣生活と看護　1)高齢者に特徴的な皮膚の変化 2)加齢による変化を踏まえた清潔援助時の生体反応 3)清潔･身だしなみ･更衣動作のアセスメント 4)清潔行為を実施する安全な環境　5)安全な入浴援助（熱傷予防含む） 4.高齢者の睡眠と看護　1)高齢者と生活リズムを調整する意義 2)加齢による睡眠の特徴と睡眠障害の要因　3)睡眠障害のアセスメント 4)睡眠障害を有する高齢者への援助（生活リズムを整える援助）	
5	5.高齢者の排泄と看護　1)加齢に伴う排泄機能の変化 2)排尿・排便に関するアセスメント 3)高齢者の排尿・排便障害 ①過活動膀胱　②頻尿　③排尿困難　④尿失禁　⑤便秘　⑥下痢 4)排尿・排便障害が高齢者に及ぼす影響	
6	5)膀胱留置カテーテル（準備・挿入・固定・管理）	（演習）
7	6)排尿・排便障害を踏まえた援助	
8	6.高齢者の生活を支える看護　1)高齢者の運動機能の変化 2)高齢者の日常生活活動のアセスメント　①歩行、移動、姿勢保持 ②心理・情緒機能（加齢に伴う変化への受容など）　③生活環境 3)日常生活活動の評価指標：・国際生活機能分類（ICF）・総合機能評価（CGA） ・基本的日常生活動作（BADL･FIM･ｶｯﾂｲﾝﾃﾞｯｸｽ）・手段的日常生活動作（IADL） ・障害･認知症高齢者の日常生活自立度判定基準・要介護･要支援の認定と区分 ・心理･情緒機能	
9	4)高齢者の廃用症候群と看護　①加齢による病態と要因 ②アセスメント　③予防と援助	
10	7.高齢者の起こりやすい事故と防止策 1)発生の要因　2)事故の生活への影響　3)防止策	
11	8.高齢者の日常生活活動のアセスメントの実際	
12	9.社会参加を促す援助　1)社会参加の状況 2)生きがいが持てる身近な場所への参加の援助　3)社会参加による心理的変化	
13	10.高齢者のセクシュアリティ　1)高齢者のセクシュアリティとは 2)加齢による性機能の変化　3)セクシュアリティへの援助	
14	11.高齢者の終末期の看護　1)終末期の捉え方（エンドオブライフケア） 2)終末期における生き方や死の迎え方の意向　3)意思決定の支援 4)身体徴候のアセスメントと援助　5)苦痛の緩和と安楽への援助 6)身体的苦痛や混乱に対する援助　7)臨死期の評価と援助 8)家族の参加と家族への援助　9)グリーフケア	
15	高齢者の健康生活の維持と障害を予防する援助のまとめ	（４５分）
16	試験	（４５分）

授業形態	講義および演習
評価	筆記試験 他の事項については履修規程の第６条、第７条に定めるとおりとする。
テキスト	系統看護学講座 老年看護学　医学書院 系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論　医学書院
その他	

【専門分野Ⅱ】

科　目	単位	時間数	配当年次	学期	担　当　者
老年主要症状別援助論	1	30	2	2学期	看護師 専任教員

授　業　の　ね　ら　い
老年期に特徴的な疾患及び障害について学び、看護を展開するために必要な基礎的能力を身につける。 また、老年期に特徴的な認知症、精神障害について看護の基本技術を理解する。

時	授　業　内　容	備　考
1	1. 活動に関連する機能の低下した高齢者への看護① 1) 日常生活動作（ADL）に障害のある高齢者への看護 2) 骨粗鬆症の高齢者への看護 3) 骨折した高齢者、関節痛のある高齢者への看護	
2	2. 内分泌・代謝系の機能が低下した高齢者への看護 1) 甲状腺疾患・糖尿病・脂質異常症の高齢者への援助	
3	3. 視聴覚機能が低下した高齢者への看護 1) 白内障・緑内障の高齢者への看護 2) 老人性難聴の高齢者への看護	
4	4. 排泄機能が低下した高齢者への看護 1) 前立腺肥大症の高齢者への看護	
5	5. 恒常性維持機能の低下した高齢者への看護 1) 脱水症・熱中症の高齢者に対する看護 2) 感染症（肺炎、感染性胃腸炎、食中毒、インフルエンザ）の高齢者に対する看護 3) 感染症の罹患防止と感染拡大の防止	
6	6. 皮膚機能が低下した高齢者への看護 1) 高齢者の掻痒症に対する看護	
7	7. 活動に関連する機能の低下した高齢者への看護② 1) パーキンソン症候群の高齢者への看護	
8	老年期に特徴的な疾患及び障害と看護のまとめ	（４５分）
9	8. 認知機能の障害に対する看護 1) うつ状態の高齢者への看護	
10	9. せん妄のある高齢者への看護	
11	10. 認知症の高齢者に対する看護　1) 認知症とは 2) 病態と要因 3) 診断に必要な検査（認知機能検査・画像検査）	
12	4) 認知機能の評価方法（知的機能の評価・生活機能の評価・評価尺度の活用） 5) 認知症の基本構造　（中核症状・環境と行動・心理症状・認知症の経過） 6) 行動・心理症状と生活への影響と援助	
13	7) 認知症の治療と援助　（コミュニケーション方法・療養的アプローチ 療養環境の調整・急性期一般病棟での援助・効果的な関わり方）	
14	8) 認知症の予防 9) 認知症の高齢者を持つ家族への支援とサポートシステム 10) 認知症患者の権利擁護のための社会的支援・制度	
15	11. 老年精神病の対応（事例を通して）	
16	試験	（４５分）

授業形態	講義
評価	筆記試験 他の事項については履修規程の第６条、第７条に定めるとおりとする。
テキスト	系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論　　医学書院
その他	

【専門分野Ⅱ】

科　目	単位	時間数	配当年次	学期	担　当　者
老年援助論演習	1	30	2	2学期	教育主事 専任教員

授　業　の　ね　ら　い
老年期にある対象の理解および看護の方法を学び、老年期に特徴的な疾患の事例を通し知識の統合を図る。

時	授　業　内　容	備　考
1	1．大腿骨頸部骨折の高齢者の看護 1）情報収集 2）大腿骨頸部骨折の病態と治療	
2	3）手術を受ける高齢者の看護 （外来受診時、入院時、検査、手術前の看護）	
3	4）牽引療法	（演習）
4	5）手術を受ける高齢者の看護 （手術から手術中の看護）	
5	6）合併症予防の看護	（演習）
6	7）手術を受ける高齢者の看護 （手術後から退院への看護）	
7	8）術後の体位変換（外転枕）と危険肢位の指導	（演習）
8	2．脳血管疾患の高齢者の看護 1）事例紹介　　2）アセスメント	
9	3）関連図　　4）問題リスト　5）看護計画立案	
10	5）看護計画立案	
11	6）脳血管疾患の高齢者の看護（誤嚥性肺炎予防の援助）	（演習）
12	脳血管疾患の高齢者の看護（看護計画の修正）	
13	7）脳血管疾患の高齢者の看護（廃用症候群予防の援助） 移動・移乗、褥瘡予防、他動運動、	（演習）
14	脳血管疾患の高齢者の看護（看護計画の修正）	
15	3．福祉支援機器、システム、地域と社会資源の活用 （地域連携・服薬管理・安全管理）	
16	試験	（４５分）

授業形態	講義および演習
評価	筆記試験 他の事項については履修規程の第６条、第７条に定めるとおりとする。
テキスト	系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論　　医学書院 系統看護学講座　成人看護学［7］脳・神経　医学書院 系統看護学講座　成人看護学[10]運動器　　医学書院
その他	

【専門分野Ⅱ】

科　目	単位	時間数	配当年次	学期	担　当　者
小児看護学概論	1	15	1	2学期	副学校長

授　業　の　ね　ら　い
小児期各期の特徴を理解し、小児が持つ健康問題や社会の変化が小児と家族に及ぼす影響について学ぶ。小児の成長発達を促すための家族に対する援助を理解する。

時	授　業　内　容	備　考
1	1. 小児の看護の変遷 1)小児とは 2)小児看護の概念 ①小児看護の特徴　②小児医療の変遷と課題　③現代の小児看護 2. 小児看護における看護の目標と役割 1)小児看護の目標 2)小児看護の役割	
2	3.　小児の成長・発達の特徴 1)成長発達とは　2)小児の発達段階区分 3)成長・発達の進み方　4)成長・発達に影響する因子 5)成長・発達の評価　6)発達理論と発達課題	
3	4. 小児各期の特徴 1)乳児期・幼児期の特徴 2)学童期・思春期・青年期の特徴	
4	5. 現代社会における子どもをめぐる諸問題 1)小児と家族の諸統計 ①人口構造　②出生と家族（出生数・合計特殊出生率） ③子どもの死亡（周産死亡・乳児死亡・子どもの死亡） 2)事故・いじめ・不登校・体罰・虐待・自殺	
5	6.　小児の栄養 1)栄養の意義 2)食事摂取基準 3)発達段階別の小児の栄養の特徴と看護	
6	7.　小児と家族を取り巻く社会 1)政策・法律・制度 ①児童福祉法、母子保健法、子育て支援、児童の権利に関する条約、児童憲章 ②児童虐待予防法、学校安全保健法 ③医療費の支援 ④予防接種	
7	8. 小児看護における倫理　1)小児の権利と変遷 2)児童の権利に関する条約　3)看護場面での倫理 9.　小児の人権 1)権利擁護（アドボカシー） 2)インフォームドアセント	
8	試験	（４５分）

授業形態	講義
評価	筆記試験 他の事項については履修規程の第６条、第７条に定めるとおりとする。
テキスト	系統看護学講座 小児看護学[1]小児看護学概論・小児臨床看護総論　医学書院
その他	

【専門分野Ⅱ】

科　目	単位	時間数	配当年次	学期	担　当　者
小児の健康と看護	1	30	2	1学期	非常勤講師 専任教員

授　業　の　ね　ら　い
小児各期の特徴を理解し、健康を障害された小児および家族に疾病の回復、健康の保持・増進、成長発達を促すために必要な援助を理解する。

時	授　業　内　容	備　考
1	1. 小児各期の特徴と日常生活援助 1)乳児期	
2	1. 小児各期の特徴と日常生活援助 2)幼児期　3)学童期	
3	1. 小児各期の特徴と日常生活援助 4)思春期	
4	2. 子どものアセスメント 1)子どものアセスメントに必要な技術 (1)コミュニケーション(2)バイタルサイン(3)身体測定 2)身体的アセスメント (1)成長の評価 (2)発達の評価	
5	3．子どもの養育 1)食の援助（成長発達に応じた食形態の選択、調乳） 2)排泄の援助（おむつ交換）　3)清潔援助（衣服の着脱） 4)感染予防　5)運動と遊び（学習）	
6	3．こどもの養育 1)食の援助（成長発達に応じた食形態の選択、調乳） 2)排泄の援助（おむつ交換）　3)清潔援助（衣服の着脱） 4)感染予防　5)運動と遊び（学習）	(演習)
7	4．病気・障害を持つ小児と家族の看護 1)病気・障害が小児と家族に与える影響 2)小児の健康問題と看護	
8	5．小児における疾病の経過と看護 1)慢性期にある小児と家族の看護 2)終末期の小児と家族の看護	
9	5．小児における疾病の経過と看護 3)急性期にある小児と家族の看護 4)周手術期の小児と家族の看護	
10	6．さまざまな環境にある小児と家族の看護 1)外来における看護：トリアージ・虐待への気づきと対応 2)在宅における看護：セルフケア行動の促進	
11	7．症状を示す小児の看護　1)不機嫌・啼泣　2)痛み 3)呼吸困難　4)チアノーゼ　5)ショック	
12	7．症状を示す小児の看護 6)発熱（熱性けいれん含む）7)消化器症状（嘔吐・下痢・便秘）8)脱水　9)浮腫	
13	7．症状を示す小児の看護 10)出血　11)貧血　12)意識障害　13)発疹	
14	8．小児の事故と外傷の看護 1)小児の事故の特徴とその要因 2)主な事故・外傷（外傷、誤飲・誤嚥、溺水、熱傷、熱中症）	
15	8．小児の事故と外傷の看護 2)主な事故・外傷（外傷、誤飲・誤嚥、溺水、熱傷、熱中症）	
16	試験	（４５分）

授業形態	講義および演習
評価	筆記試験および授業中の課題 他の事項については履修規程の第６条、第７条に定めるとおりとする。
テキスト	系統看護学講座 小児看護学[1]小児看護学概論・小児臨床看護総論
その他	

【専門分野Ⅱ】

科　　目	単位	時間数	配当年次	学期	担　当　者
小児主要症状別援助論	1	30	2	2学期	医師 看護師 専任教員

授　業　の　ね　ら　い
小児の代表的な疾病や障害の特徴を理解し、健康障害を持つ小児と家族を含めた看護の方法を学ぶ。

時	授　業　内　容	備　考
1	1. 先天異常　1)染色体異常 2. 代謝性疾患　1)新生児マススクリーニング　2)アミノ酸代謝異常 糖質代謝異常　3)糖尿病	
2	3. 内分泌疾患　1)成長ホルモン分泌不全性低身長症　2)甲状腺機能亢進症 3)甲状腺機能低下症　4)先天性副腎過形成症 5)性腺の異常 4. 呼吸器疾患　1)上気道の炎症（クループ症候群）2)気管支炎　3)肺炎	
3	5. 循環器疾患　1)先天性心疾患　2)川崎病　3)乳幼児突然死症候群 6. 腎・泌尿器疾患　1)腎不全　2)糸球体腎炎	
4	7. 消化器疾患　1)口唇・口蓋裂　2)鎖肛　3)肥厚性幽門狭窄症 4)腸重積　5)胆道閉鎖症　6)急性乳幼児下痢症　7)急性胃腸炎	
5	8. 感染症　1)ウィルス感染症　2)細菌感染症　3)ロタウィルス 4)腸管出血性大腸菌感染症 9. 免疫・アレルギー性疾患　1)免疫不全症　2)気管支喘息 3)アトピー性皮膚炎	
6	10. 腫瘍性疾患　1)悪性リンパ腫　2)神経芽腫　3)脳腫瘍　4)骨肉腫 11. 血液疾患　1)白血病　2)貧血　3)血友病	
7	１．活動制限のある小児と家族の看護 1)筋・骨格器系に障害のある患児と家族への看護 （先天性股関節脱臼：乳児期）（骨折：学童期） ２．隔離中の小児と家族の看護 1)消化器系に障害のある患児と家族への看護 （感染性胃腸炎：乳幼児期）	
8	３．食事制限のある小児と家族の看護 1)腎・泌尿器系に障害のある患児と家族への看護 （ネフローゼ症候群：学童期） ４．医療的ケアを必要として退院する小児と看護 1)内分泌・代謝系に障害のある患児と家族への看護 （Ⅰ型糖尿病：学童期）	
9	５．急性症状を呈する小児と家族の看護 1)炎症性疾患をもつ患児と家族への看護（川崎病：乳幼児期） 2)呼吸器系に障害のある患児と家族への看護 （肺炎：乳幼児期）（気管支喘息：学童期）	
10	６．救急処置が必要な小児と家族の看護 1)熱傷状態にある患児への看護（熱傷：乳幼児期） ７．先天異常のある小児と家族の看護 1)染色体異常のある患児の看護 （ダウン症候群：乳児期）（二分脊椎：幼児期）	
11	2)循環器系に障害のある患児と家族への看護 （ファロー四徴症：乳幼児期・学童期） 3)消化器系に障害のある患児と家族への看護 （肥厚性幽門狭窄症：乳幼児期）	
12	8. 筋ジストロフィーの小児と家族の看護	
13	９．心身障害のある小児と家族の看護 1)発達障害 2)重症心身障害（てんかん・水頭症・脳性麻痺）	
14	１０．在宅療養を受ける小児と家族の看護 １１．災害時の小児と家族への看護 1)災害による小児への影響とストレス（トリアージ含む） 2)災害時の小児と家族への援助	
15	まとめ	
16	試験	（４５分）

授業形態	講義
評価	筆記試験 他の事項については履修規程の第６条、第７条に定めるとおりとする。
テキスト	系統看護学講座　小児看護学[1]小児看護学概論・小児臨床看護総論 系統看護学講座　小児看護学[2]小児臨床看護各論　医学書院
その他	

【専門分野Ⅱ】

科　目	単位	時間数	配当年次	学期	担　当　者
小児援助論演習	1	30	2	2学期	看護師

授　業　の　ね　ら　い

事例を通し小児とその家族の理解及び看護の方法を学び、知識の統合を図る。小児看護に必要な技術を習得する。

時	授　業　内　容	備　考
1	1. 小児の看護過程の展開（急性リンパ性白血病：乳幼児期） ＊細胞移植含む 1)疾患の理解と情報収集	
2	1. 小児の看護過程の展開 2)疾患, 成長・発達段階, 家族機能を踏まえたアセスメント	
3	1. 小児の看護過程の展開 3)看護問題の抽出　4)看護計画の立案	
4	1. 小児の看護過程の展開	(発表)
5	2. 検査を受ける患児の看護 1)プレパレーションとは 2)プレパレ―ションの作成計画	(グループワーク)
6	2. 検査を受ける患児の看護 2)プレパレ―ションの作成計画	(グループワーク)
7	2. 検査を受ける患児の看護 3)検査を受ける患児へのプレパレ―ション	(発表／演習)
8	2. 検査を受ける患児の看護	(まとめ)
9	3. 日常生活援助を必要とする患児の看護 1)輸液療法を受ける患児への援助（清潔・衣生活・排泄） (看護計画立案)	(グループワーク)
10	3. 日常生活援助を必要とする患児の看護 1)輸液療法を受ける患児への援助（清潔・衣生活・排泄）	(発表／まとめ)
11	4. 薬物療法を受ける患児の看護（看護計画立案） 1)薬物動態と薬用量の決定　2)与薬（経口与薬、坐薬、点耳、点鼻、点眼、注射）　3)輸液管理　4)抑制	(講義／グループワーク)
12	4. 薬物療法を受ける患児の看護（看護計画立案）	(発表／まとめ)
13	5. 検査・治療・処置を受ける小児の看護 1)検体採取（採血、採尿、採便、骨髄穿刺、腰椎穿刺）	(演習)
14	5. 検査・治療・処置を受ける小児の看護 2)酸素療法　3)吸引　4)吸入	(演習)
15	6. 小児の救命時の看護 1)意識・呼吸状態の観察　2)心肺蘇生法　3)人工呼吸法 4)気道内異物除去	
16	試験	(４５分)

授業形態	講義および演習
評価	筆記試験および授業中の課題 他の事項については履修規程の第６条、第７条に定めるとおりとする。
テキスト	系統看護学講座 小児看護学[1]小児看護学概論・小児臨床看護総論 系統看護学講座 小児看護学[2]小児臨床看護各論　医学書院
その他	

【専門分野Ⅱ】

科　目	単位	時間数	配当年次	学期	担　当　者
母性看護学概論	1	15	1	2学期	非常勤講師

授　業　の　ね　ら　い
母性の特徴を理解し対象が持つ健康問題、家族社会に及ぼす影響について学び看護の機能と役割を理解する。

時	授　業　内　容	備　考
1	1. 母性看護の概念 2. 母性・父性の定義 3. 母性看護の対象 4. 母性看護の目標	
2	5. 母性看護と倫理 1) 対象の権利と擁護 2) 自己決定の尊重 3) プライバシーの保持 4) 人間の性と生殖や医療ににおける倫理 5) 母性保健をめぐる問題 ①ドメスティックバイオレンス ②出生前診断) 6) 母子保健の現状 7) 母子保健の歴史	
3	6. 母子保健に関連する法律と施策 1) 母子保健法 2) 子育て支援施策 3) 母性保護の関係法規 4) 女性の就労の関係法規 5) 母子保健に関連する統計 7. 外国人妊産婦と家族への支援 8. 災害時の妊産婦と家族への支援	
4	9. 人間の性と生殖 1) 性の概念 ①セックス　②ジェンダー　③セクシュアリティ ④リプロダクティブヘルス/ライツ　⑤生殖器　⑥妊娠 ⑦性分化　⑧性染色の異常	
5	10. 女性のライフサイクル各期の看護 1) 思春期女性の健康課題と看護 ①第二次性徴　②月経異常　③月経教育　④性教育	
6	10. 女性のライフサイクル各期の看護 2) 成熟期女性の健康課題と看護 ①生殖器の疾患：子宮筋腫・子宮内膜症・子宮がん・乳がん ②健康課題と看護：不妊症・不育症・ＳＴＤ・受胎調節・避妊・ 家族計画	
7	10. 女性のライフサイクル各期の看護 3) 更年期の健康課題と看護 ①更年期障害　②治療　③尿失禁　④骨粗鬆症　⑤高脂血症 4) 老年期の健康課題と看護　①心理　②性　③骨折　④膣炎 ⑤子宮脱	
8	試験	（４５分）

授業形態	講義
評価	筆記試験 他の事項については履修規程の第６条、第７条に定めるとおりとする。
テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学［1］母性看護学概論　医学書院
その他	

【専門分野Ⅱ】

科　　目	単位	時間数	配当年次	学期	担　当　者
母性援助論Ⅰ	1	30	2	1学期	専任教員

授　業　の　ね　ら　い
正常な妊婦・産婦・褥婦・新生児の理解と援助の方法を学ぶ。そして、援助については、妊産婦をとりまく家族、環境や社会の変遷なども踏まえた関わり方について考えることができる。

時	授　業　内　容	備　考
1	1. 妊娠期 1)諸定義　2)妊娠の成立　3)妊娠期の身体変化　4)妊婦健康診査	
2	1. 妊娠期 5)妊娠の経過　①妊婦のフィジカルアセスメントに必要な技術 ②検査　③ＮＳＴ	
3	1. 妊娠期 5)妊娠期の経過　④保健指導　⑤生活を整えるための支援 ⑥嗜好品　⑦薬剤　⑧放射線　⑨感染	
4	1. 妊娠期 5)妊娠期の経過　⑩マイナートラブル　⑪食事　⑫妊婦体操	
5	2. 分娩期 1)分娩の区分　2)分娩3要素：娩出力、産道、胎児および付属物	
6	2. 分娩期 2)分娩3要素　3)モニタリング　4)分娩の経過　5)回旋 6)分娩第Ⅰ期の看護　①産痛緩和　②呼吸法	
7	2. 分娩期 講義　6)分娩第Ⅰ期の看護　①産痛緩和　②呼吸法 演習　１）妊婦体操　２）産痛緩和　①呼吸法　②補助動作	演習
8	3. 産褥期 1)定義　2)経過　3)退行性変化と進行性変化　①退行性変化（子宮 復古、悪露、会陰裂傷、性周期）	
9	3. 産褥期 ②進行性変化（乳房、乳汁分泌、10ヵ条）③母子相互作用	
10	3. 産褥期 4)褥婦の日常生活とセルフケア 5)マイナートラブル　①後陣痛　②マタニティブルー　③便秘	
11	3. 産褥期 6)母子・父子関係確立への援助	
12	4. 新生児 1)定義　2)新生児の生理的変化　3)特徴　4)新生児の看護の原則 5)出生直後の看護　6)移行期の看護　7)24時間以降の看護 8)母乳栄養と人工栄養	
13	4. 新生児 講義　9)沐浴　10)抱き方 演習　1)沐浴2)抱き方3)衣服の着脱４）バイタルサインの測定	演習
14	4. 新生児 講義　9)沐浴　10)抱き方 演習　1)沐浴2)抱き方3)衣服の着脱４）バイタルサインの測定	演習
15	5. 社会資源の活用	
16	試験	（４５分）

授業形態	講義および演習
評価	筆記試験 他の事項については履修規程の第６条、第７条に定めるとおりとする。
テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学［2］母性看護学各論　医学書院
その他	

【専門分野Ⅱ】

科　目	単位	時間数	配当年次	学期	担　当　者
母性援助論Ⅱ	1	30	2	2学期	医師 非常勤講師

授　業　の　ね　ら　い
異常な妊婦・産婦・褥婦・新生児の理解と援助の方法を学ぶ。

時	授　業　内　容	備　考
1	1.異常妊娠 1)ハイリスク妊娠と合併症を有する妊婦①流産　②早産　③過期妊娠　④多胎妊娠 ⑤子宮外妊娠　⑥妊娠悪阻　⑦妊娠高血圧症候群　⑧血液型不適合妊娠　⑨妊娠糖尿病 ⑩感染症　⑪出生前診断　⑫不妊症	
2	2.異常分娩 1)産道の異常①骨産道②軟産道異常　2)娩出力の異常①微弱陣痛 3)胎児の異常による分娩障害　①胎児機能不全 4)胎児付属物の異常①前置胎盤　②常位胎盤早期剥離、　③前期破水　④胎児機能不全 5)分娩時の損傷　6)分娩直後の異常　7)分娩時異常出血　8)産科ショック 9)産科処置・手術(帝王切開など)	
3	3.異常産褥 1)子宮復古不全　2)産褥期の発熱①産褥熱②感染症　3)産褥血栓症 4)乳房の異常　　①乳腺炎 5)産後の精神症状　①マタニティブルーズ　②産後うつ病　③産褥精神病	
4	4.異常新生児 1)新生児仮死　2)分娩外傷　3)低出生体重児 4)新生児の健康逸脱　①呼吸器疾患　②循環器疾患　③代謝電解質異常　④消化器疾患 ⑤高ビリルビン血症　⑥感染症　⑦新生児出血性疾患　⑧低出生体重児　⑨早産児 ⑩先天異常　⑪障害をもつ新生児	
5	5.ハイリスク妊婦への看護 1)高年妊婦　2)若年妊婦の看護　3)肥満の妊婦　4)ART後の妊婦の看護 5)出生前診断	
6	5.ハイリスク妊婦への看護 6)妊娠悪阻　7)妊娠高血圧症候群　8)血液型不適合妊娠　9)多胎　10)前置胎盤 11)常位胎盤早期剥離	
7	5.ハイリスク妊婦への看護 12)切迫流・早産　13)過期妊娠　14)子宮外妊娠　15)合併症を有する妊婦 16)妊娠糖尿病　17)感染症	
8	6.分娩期の異常と看護 1)産道の異常①骨産道②軟産道　2)娩出力の異常①微弱陣痛②過強陣痛 3)子宮破裂　4)胎児機能不全	
9	6.分娩期の異常と看護 5)胎勢・回旋異常と看護①骨盤位分娩など 6)胎児附属物の異常　①癒着胎盤　②子宮内反症	
10	6.分娩期の異常と看護 7)産科処置と産科手術①吸引分娩②帝王切開③会陰切開など　8)軟産道損傷 9)産科出血　10)産科ショック　11)DIC	
11	7.産褥期の異常と看護 1)子宮復古不全　2)産褥熱　3)精神障害　4)感染症 5)乳頭・乳房トラブル　①乳腺炎　②乳頭痛　③乳汁分泌不全　④乳汁分泌過多	
12	7.産褥期の異常と看護 6)帝王切開術後の看護　7)深部静脈血栓症 8)死産・障害をもつ新生児を出産した褥婦の看護	
13	8.新生児期の異常 1)新生児仮死　2)分娩外傷　3)低出生体重児　4)早産児　5)呼吸窮迫症候群 6)胎便吸引症候群　7)動脈管開存症　8)低体温　9)低血糖	
14	8.新生児期の異常 10)高ビリルビン血症　11)黄疸増強因子　12)核黄疸　13)メレナ　14)電解質異常 15)先天異常　16)障害をもつ新生児	
15	9.まとめ　1)妊娠期　2)分娩期　3)産褥期　4)新生児期の異常	
16	試験	(４５分)

授業形態	講義
評価	筆記試験 他の事項については履修規程の第６条、第７条に定めるとおりとする。
テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学［2］母性看護学各論　医学書院
その他	

【専門分野Ⅱ】

科　目	単位	時間数	配当年次	学期	担　当　者
母性援助論演習	1	30	2	2学期	助産師

授　業　の　ね　ら　い
事例を通し妊婦・産婦・褥婦・新生児の理解及び看護の方法を学び知識の統合を図る。 母性看護に必要な技術を習得する。

時	授　業　内　容	
1	1. 妊娠期の看護 1)健康診査の方法　2)出産準備教育 3)レオポルド触診法　4)子宮底・腹囲の測定法	(講義/演習)
2	2. 妊娠期の看護計画	(グループワーク)
3	3. 分娩期の看護　1)産痛緩和の方法	(演習)
4	4. 分娩期の看護計画	(グループワーク)
5	5.　産褥期・新生児の看護 1)抱き方の説明　2)授乳時の援助　3)新生児の計測	(演習)
6	6. 集団指導について	(グループワーク/演習)
7	7. 産褥期の看護計画	(講義・グループワーク)
8	7. 産褥期の看護計画	(グループワーク)
9	8. 保健指導の実際　1)産褥期の集団指導	(演習/グループワーク)
10	8. 保健指導の実際　1)産褥期の集団指導	(グループワーク/演習)
11	9. 保健指導の実際：発表	(グループワーク・発表)
12	10. 新生児期の看護計画	(グループワーク)
13	11. 周産期看護の実際（看護計画発表）	(グループワーク・発表)
14	11. 周産期看護の実際（看護計画発表）	(グループワーク・発表)
15	12. 周産期看護のまとめ	
16	試験	(４５分)

授業形態	講義および演習
評価	筆記試験 他の事項については履修規程の第６条、第７条に定めるとおりとする。
テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学［2］母性看護学各論　医学書院
その他	

【専門分野Ⅱ】

科　目	単位	時間数	配当年次	学期	担　当　者
精神援助論演習	1	30	2	2学期	看護師 非常勤講師

授　業　の　ね　ら　い
事例を通して、適応障害及び精神に障害のある対象の看護展開を学ぶ。

時	授　業　内　容	備　考
1	1. 援助関係の構築（信頼関係の基礎作り） 1)交流分析による自己分析　2)自己分析結果の活用	
2	1. 援助関係の構築（信頼関係の基礎作り） 3)コミュニケーション技術　4)患者ー看護師関係の発展と終結	
3	1. 援助関係の構築（信頼関係の基礎作り） 5)プロセスレコードの意義と活用	
4	2. 社会資源の活用とケアマネジメント　1)地域生活を支えるサービス・制度①自立支援医療　②同行援護　③行動援護　④重度訪問介護　⑤短期入所　⑥グループホーム　⑦就労支援	
5	3. 統合失調症患者の看護（事例展開） 1)情報収集　2)分析　3)看護問題の抽出 4)関連図 5)看護計画の立案（治療と援助）	
6	3. 統合失調症患者の看護（事例展開） 6)看護計画の立案（社会復帰に向けた援助） ①服薬管理　②心理教育　③患者・家族・保健医療福祉の専門職間の連携等も含む　④社会での生活の支援	
7	4. 精神看護における安全管理　1)病棟環境の整備と行動制限　2)自殺・自殺企図・自傷行為・無断離院　3)攻撃的行動、暴力、暴力予防プログラム　4)災害時の精神科病棟の安全確保	
8	試験	（４５分）
9	5. 2年にわたる身体化障害、行動化を示した13歳小児科男児症例に対する心理的アプローチ：看護師・心理士協働	
10	6. 心因性身体症状や問題行動についての心理的なケアの実際を理解する	
11	7. 看護師・心理士協働の心理的ケアをアセスメントする	
12	8. 8年間続いた抜毛症18歳女子症例に対する心理療法	
13	9. 抜毛することに悩まない患者と悩む家族や周囲の人たち	
14	10. 抜毛行動の意味を理解すると問題行動がかわる	
15	11. 心理療法が心理的問題に及ぼすもの ～心の発達を促進・自我機能強化・観察自我の出現～	
16	課題学習　1. 心理療法をナースの立場から考える 2. ナースと心理士の協働について思うこと	

授業形態	講義
評価	筆記試験および授業中の課題 他の事項については履修規程の第６条、第７条に定めるとおりとする。
テキスト	系統別看護学講座　精神看護学[2]精神看護の展開　医学書院
その他	

【専門分野Ⅱ】

科　目	単位	時間数	配当年次	学期	担　当　者
精神援助論Ⅰ	1	30	2	1学期	非常勤講師 看護師

授　業　の　ね　ら　い
適応障害にある対象とその家族への対応の仕方及び援助の方法について学ぶ。 精神障害を持つ対象とその家族への対応の仕方及び援助の方法について学ぶ。また精神障害者の権利を擁護し、地域生活を支援していく援助と社会資源の活用について理解を深める。

時	授　業　内　容	備　考
1	1. 統合失調症の患者の看護	
2	2. 躁うつ病の患者の看護	
3	3. 神経症・心因反応・パーソナリティー障害の患者の看護	
4	4. 薬物依存症患者の看護	
5	5. 精神疾患患者への治療 1)薬物療法　2)精神療法　3)リハビリテーション療法 ①精神領域におけるリハビリテーションの概念（ICF含む）②各訓練 ③リラクゼーション	
6	6. 精神保健福祉法による行動制限 1)精神保健福祉法とは 2)入院患者の処遇と基準	
7	7. 精神を病む患者への社会復帰・社会参加を支えるチーム医療 1)精神保健医療チーム 2)多職種連携（医師・歯科医師・保健師・作業療法士・精神保健福祉相談員・ピアサポーター・薬剤師・栄養士・臨床心理技術者（臨床心理士・公認心理師等））	
8	3)社会資源の活用 ①ケアマネジメントの考え方 ②行政や訪問看護との連携	
9	8. 適応障害について	
10	9. こころを病むことⅠ 適応障害の基底にある病理	
11	10. こころを病むことⅡ 心身にまたがる問題	
12	11. こころを病むことⅢ ターミナルケアにおける課題	
13	12. 適応に関する様々な問題(PTSD)	
14	13.　心理療法的支援	
15	14.　事例について 15.　心理検査を体験する	
16	試験	（４５分）

授業形態	講義
評価	筆記試験 他の事項については履修規程の第６条、第７条に定めるとおりとする。
テキスト	系統別看護学講座　精神看護学[1]精神看護の基礎　医学書院 系統別看護学講座　精神看護学[2]精神看護の展開　医学書院
その他	

【専門分野Ⅱ】

科　目	単位	時間数	配当年次	学期	担　当　者
精神援助論Ⅱ	1	15	2	2学期	医師

授　業　の　ね　ら　い
主な精神障害の病態、症状、治療、検査等について学び、精神障害にある対象を理解する。

時	授　業　内　容	備　考
1	精神医学　　精神症状 精神作用物質使用による精神・行動障害	
2	統合失調症の症状・疫学・成因	
3	統合失調症の治療（薬物療法・精神療法・リハビリテーション）	
4	気分（感情）障害	
5	神経症状障害、ストレス関連障害、身体表現性障害	
6	生理的障害・身体的要因に関連した行動症候群 パーソナリティ障害 器質性精神障害（認知症・症状精神病）	
7	精神作用物質使用による精神および行動の障害 てんかん 神経発達障害群・秩序破壊的・衝動制御・素行障害群 心身症	
8	試験	（４５分）

授業形態	講義
評価	筆記試験 他の事項については履修規程の第６条、第７条に定めるとおりとする。
テキスト	系統別看護学講座　精神看護学[1]精神看護の基礎　医学書院 系統別看護学講座　精神看護学[2]精神看護の展開　医学書院
その他	

【専門分野Ⅱ】

科　目	単位	時間数	配当年次	学期	担　当　者
精神援助論演習	1	30	2	2学期	看護師 非常勤講師

授　業　の　ね　ら　い
事例を通して、適応障害及び精神に障害のある対象の看護展開を学ぶ。

時	授　業　内　容	備　考
1	1. 援助関係の構築（信頼関係の基礎作り） 1)交流分析による自己分析　2)自己分析結果の活用	
2	1. 援助関係の構築（信頼関係の基礎作り） 3)コミュニケーション技術　4)患者－看護師関係の発展と終結	
3	1. 援助関係の構築（信頼関係の基礎作り） 5)プロセスレコードの意義と活用	
4	2. 社会資源の活用とケアマネジメント　1)地域生活を支えるサービス・制度①自立支援医療　②同行援護　③行動援護　④重度訪問介護　⑤短期入所　⑥グループホーム　⑦就労支援	
5	3. 統合失調症患者の看護（事例展開） 1)情報収集　2)分析　3)看護問題の抽出 4)関連図 5)看護計画の立案（治療と援助）	
6	3. 統合失調症患者の看護（事例展開） 6)看護計画の立案（社会復帰に向けた援助） ①服薬管理　②心理教育　③患者・家族・保健医療福祉の専門職間の連携等も含む　④社会での生活の支援	
7	4. 精神看護における安全管理　1)病棟環境の整備と行動制限　2)自殺・自殺企図・自傷行為・無断離院　3)攻撃的行動、暴力、暴力予防プログラム　4)災害時の精神科病棟の安全確保	
8	試験	（４５分）
9	5. 2年にわたる身体化障害、行動化を示した13歳小児科男児症例に対する心理的アプローチ：看護師・心理士協働	
10	6. 心因性身体症状や問題行動についての心理的なケアの実際を理解する	
11	7. 看護師・心理士協働の心理的ケアをアセスメントする	
12	8. 8年間続いた抜毛症18歳女子症例に対する心理療法	
13	9. 抜毛することに悩まない患者と悩む家族や周囲の人たち	
14	10. 抜毛行動の意味を理解すると問題行動がかわる	
15	11. 心理療法が心理的問題に及ぼすもの ～心の発達を促進・自我機能強化・観察自我の出現～	
16	課題学習　1. 心理療法をナースの立場から考える 2. ナースと心理士の協働について思うこと	（４５分）

授業形態	講義
評価	筆記試験および授業中の課題 他の事項については履修規程の第６条、第７条に定めるとおりとする。
テキスト	系統別看護学講座　精神看護学[2]精神看護の展開　医学書院
その他	